

診療情報管理委員会ニュース

(臨床指標報告)

VOL. 21 2015年12月 診療情報管理委員会

【診療科別症例数TOP5：外科】

<年度別：外科TOP5一覧>

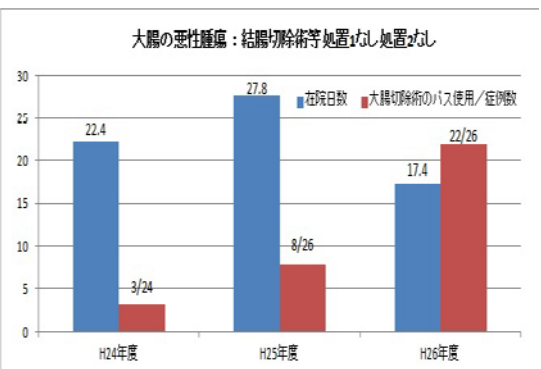
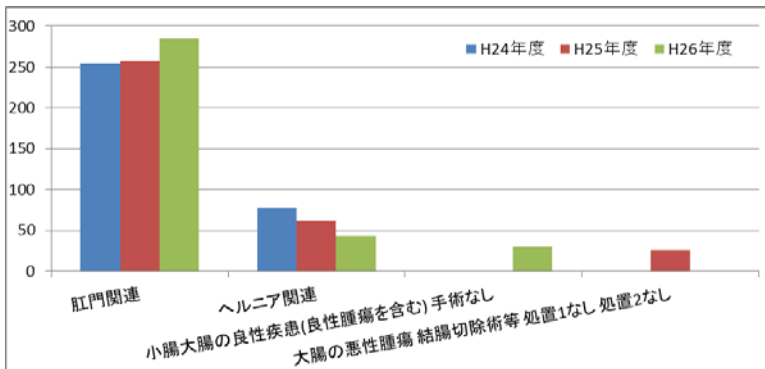
年度	診断群分類	名称	症例数	患者数	患者重複	平均年齢	平均在院日数(当院)	平均在院日数(全国)	日数差	転院率
H24年度	060220xx97xxxx	直腸脱、肛門脱 手術あり	139	138	1	62.1	2.63	10.06	-7.43	0.00%
	060240xx97xxxx	外痔核 手術あり	74	73	1	53.2	2.41	5.50	-3.09	0.00%
	060160x002xx0x	鼠径ヘルニア 15歳以上 ヘルニア手術 鼠径ヘルニア 副傷病なし	46	46	0	65.5	4.33	5.66	-1.33	0.03%
	060245xx97xxxx	内痔核 手術あり	41	41	0	60.8	1.80	6.35	-4.55	0.00%
	060210xx99000x	ヘルニアの記載のない腸閉塞 手術なし 処置1なし 処置2なし 副傷病なし	31	21	10	70.5	9.16	9.44	-0.28	0.00%

年度	診断群分類	名称	症例数	患者数	患者重複	平均年齢	平均在院日数(当院)	平均在院日数(全国)	日数差	転院率
H25年度	060240xx97xxxx	外痔核 手術あり	127	127	0	55.3	2.55	5.06	-2.51	0.00%
	060220xx97xxxx	直腸脱、肛門脱 手術あり	103	102	1	64.6	2.40	10.26	-7.86	0.00%
	060160x002xx0x	鼠径ヘルニア 15歳以上 ヘルニア手術 鼠径ヘルニア 副傷病なし	61	61	0	66.8	4.20	5.70	-1.50	0.00%
	060235xx97xxxx	痔瘻 手術あり	27	25	2	48.0	2.41	7.35	-4.94	0.00%
	060035xx0100xx	大腸の悪性腫瘍 結腸切除術等 処置1なし 処置2なし	26	26	0	75.3	27.81	19.06	8.75	0.02%

年度	診断群分類	名称	症例数	患者数	患者重複	平均年齢	平均在院日数(当院)	平均在院日数(全国)	日数差	転院率
H26年度	060220xx97xxxx	直腸脱、肛門脱 手術あり	204	203	1	59.7	2.60	10.06	-7.46	0.00%
	(短期滞在)	直腸脱、肛門脱の短手3(痔核手術(硬化療法(四段階注射法)))	54	54	0	65.6	1.33	5.66	-4.33	0.00%
	(短期滞在)	鼠径ヘルニアの短手3(鼠径ヘルニア手術(15歳以上))	43	41	2	67.0	4.26	5.66	-1.40	0.00%
	060100xx99xxxx	小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む) 手術なし	30	30	0	76.1	2.07	19.06	-16.99	0.00%
	060235xx97xxxx	痔瘻 手術あり	27	26	1	46.9	2.52	7.35	-4.83	0.00%

■ 肛門関連
■ ヘルニア関連

<グラフ1：症例数 / グラフ2：大腸の悪性腫瘍 在院日数とクリニカルパス使用数>



- ・ H26年度診療報酬改定：それに伴いDPCコード変更あり
- ・ 全国の平均在院日数：厚生労働省公開データ引用
- ・ 転院率：DPC 様式 1 内の退院先が①他院転院、②その他の場合

girasol より出力 (DPC データ使用)

【定義】

●DPCの診断群分類(MDC14桁)を元に、当院【外科】の症例数TOP5を表しています。(DPCに関しては、当院ホームページの「入院のご案内：入院費用」を参照ください)
※この一覧は同じ疾患であっても、手術・処置・検査の実施有無別で集計しているため、疾患全体を表しているわけではありません。

【結果】

- 痔核、肛門脱、痔瘻関連疾患が上位となっており、次いでヘルニアが多い件数となるが、ヘルニアのみで年間比較をすると減少傾向にある。(グラフ1)
- 平均年齢をみると、症例数の多い肛門関連疾患は40歳中盤～60歳前後が多くなっている。一覧に表されていないが、稀に20代の入院も発生している。
- 平均在院日数は、クリニカルパス対象疾患が多いためか全国平均と比べても短期間となっている事が分かる。しかし、大腸の悪性腫瘍・手術ありの症例のみ全国平均と比べ、H25年度では8.75日長くなっている。
- 大腸の悪性腫瘍に焦点を当て、在院日数と大腸切除術のクリニカルパス使用数の年間比較を行うと(グラフ2)、症例数は大きく変わらないが、クリニカルパス使用件数増加に伴い、在院日数も短縮傾向にある事が分かる。